

低平地研究会

活動報告会及び特別講演会資料

日 時：2022年5月27日(金) 15:00～17:30

場 所：佐賀大学工学部 6号館 2階 多目的ホール

(対面とZOOMオンラインのハイブリッド開催)

・15:00～15:45 研究活動報告会

1. 会長挨拶
2. 運営委員長報告
3. 専門、特別部会報告
 - ① 歴史・文化専門部会
 - ② 地域創生専門部会
 - ③ 環境専門部会
 - ④ 都市空間専門部会
 - ⑤ 基盤整備専門部会
 - ⑥ 低平地防災特別部会

・16:00～17:30 特別講演

『国土のり・デザイン』 わたしたちはどのような国土をつくりあげ、どう使ってきたのか

講師：中岡義介 氏 (元佐賀大学教授)

2021年度低平地研究会活動実績

月次	日 時		内 容	備 考	
4月	2021年04月26日 (月)	10:00~11:00	第1回幹事会	第1回低平地研究会運営委員会の議案について	
6月	2021年06月01日 (火)	15:00~18:00 ※オンライン+対面	①部会活動 (都市空間)	・特別講演会 大村真也氏 (建築のはじまりとおわり) ・建築都市デザイン演習 II ゲスト講評会 主催: 佐賀大学理工学部都市空間部門	
	2021年06月02日 (水)	10:30~12:00 ※オンライン実施	第1回運営委員会	(1) 2020年度活動報告について (2) 2020年度決算について (3) 2021年度活動計画 (案) について (4) 2021年度予算 (案) について (5) 役員交代 (案) について	
		13:30~14:20 ※オンライン実施	活動報告会 【活動報告】	2021年度各部会活動報告 ・運営委員長報告 ・環境部会報告 ・基盤整備部会報告 ・地域創生部会報告 ・都市空間部会報告 ・歴史・文化部会報告	
		14:30~16:00 ※オンライン実施	活動報告会 【特別講演】	「気候変動と地域・都市はどのように適応すべきか ～低平地を対象に一緒に考える～」 講師: 東京大学 生産技術研究所 加藤孝明 教授	
	—	—	※中止	会長懇談会	・特別講演会講師を囲んで
	—	—	—	成果普及	(部会活動冊子配布・特別会員、個人会員会費請求書発送準備) (会員名簿整理)
	2021年06月16日 (水) 2021年06月17日 (木)	※中止	—	成果普及	SAGA建設技術フェア2021 (後援) (ガーデンテラス佐賀 ホテル&リゾートピア)
7月	2021年07月07日 (水)	11:00~12:00 ※オンライン実施	部会連絡調整会議 (第一回)	2021年度部会活動予定全般 「低平地研究」編集方針	
	2021年07月15日 (木)	—	ニューズレター発行	No. 101	
	—	—	機関誌発行	「低平地研究No. 30」	
10月	2021年10月29日 (金)	—	ニューズレター発行	No. 102	
11月	2021年11月10日 (水)	11:00~12:00 ※対面+オンライン実施	部会連絡調整会議 (第二回) (佐賀大学)	各部会活動報告 「低平地研究No. 31」論文テーマ・寄稿について (ほか)	
11月 ~ 12月	2021年11月29日 (月) ~12月07日 (火)	—	②部会活動 (環境)	低平地技術に関するASIAN 協働セミナープログラムの共催 場所: オンライン Facebook、YouTube (動画翻訳) 参加大学: 佐賀大学理工学部 ハサヌディン大学 (インドネシア) ラバン・マクラット大学 (インドネシア) カントー大学 (ベトナム)	
	2021年12月11日 (金)	10:00~17:30	③部会活動 (都市空間)	野老朝雄氏作品のオープニング理工学部4号館見学会 および市民向けシンポジウムの共催 日時: 2021年12月11日 (土) 10:00~17:30 場所: 佐賀大学理工学部4号館、6号館ほか オンライン 主催: 佐賀大学理工学部都市工学部門 佐賀の木・家・まちづくり協議会 共催: (一社) 日本建築学会九州支部佐賀支所	

月次	日 時		内 容	備 考
1月	2022年01月11日 (火)	09:30~11:30	④部会活動 (都市空間)	公開研究会 「津波被災地域こみる低平地集落の移転・再生と課題」主催 場所：佐賀大学理工学部4号館デザインスタジオ 講師：鈴木 孝男 氏 (新潟食料農業大学教授) 菊池 義浩 氏 (仙台高等専門学校准教授)
	2022年01月22日 (土)	14:00~16:00	⑤部会活動 (地域創生)	講演会『三瀬と三瀬氏の歴史について』 場所：三瀬総合福祉センターゆうゆう (久留米市水沼の里2000年記念の森) 講師：大矢野 栄次 氏 (久留米大学名誉教授)
3月	2022年03月02日 (水)	11:00~12:00 ※オンライン実施	部会連絡調整会議 (第三回) (佐賀大学)	各部会活動報告、来年度計画、再来年度の30周年に向けて 低平地研究No.31 進捗状況など
	2022年03月09日 (水)	—	ニューズレター発行	No.103
	2022年03月15日 (火)	(公開開始)	⑥部会活動 (都市空間)	初心者のためのオンラインGIS学習コンテンツ2の公開 低平地研究会Webサイト内 https://lora-saga.jp/toshi.html (1年間公開予定)
	2022年03月17日 (木)	13:30~15:00	⑦部会活動 (環境)	講演会『水害における災害廃棄物発生状況と発生量の推定』 日時：2021年3月17日(木) 13:30~15:00 場所：佐賀大学理工学部6号館1F 都市大講義室 講師：島岡 隆行 氏 (九州大学工学部 工学研究院環境社会部門 教授)
	2022年03月28日 (月)	13:00~16:00	⑧部会活動 (基盤整備+低平地防災)	『降雨特性と河川浸水面積への影響、二層地盤上の剛性基礎の支持力解析に関する講演会』主催 場所：佐賀大学理工学部3号館1階大セミナー室 (対面、オンラインWebex利用) ○将来気候下の降雨特性と中小河川の浸水面積への影響 講師：橋本 彰博 氏 (福岡大学工学部准教授) ○粘性土上に砂質土を有する二層地盤上の剛性基礎の支持力解析 講師：山本 健太郎 氏 (西日本工業大学工学部准教授) 共催：佐賀大学理工学部都市工学部門
	2022年03月29日 (火)	13:00~17:00	⑨部会活動 (都市空間)	第22回佐賀大学コミュニティデザインカフェ 「建築を享受することの射程/環境と時間と距離」共催 場所：佐賀大学理工学部4号館1Fデザインスタジオ +オンライン ○第一部 13:00~14:50 特別講演会 講師：倉方 俊輔 氏(大阪市立大学教授) 辻原 万規彦 氏(熊本県立大学教授) ○第二部 15:00~17:30 ゲスト講演会 主催：佐賀大学理工学部都市工学部門建築環境デザインコース、佐賀大学理工学部コミュニティデザイン研究会 共催：(一社)日本建築学会九州支部佐賀支所

2021年度の低平地研究会の取り組み

2021年度は、コロナ禍により依然として活動が制約される状況ではあるものの、オンラインはじめ代替法なども常態化、そのメリットも感じつつ種々の活動がおおむね順調に実施された1年でありました。

年度初めの2021年度の運営委員会(6/2)はオンライン会議の形式で開催し、あわせて同日開催されました活動報告会、また、加藤孝明氏(東京大学教授)を講師としてお招きした特別講演はオンラインを活用して盛会に開催することができました。

年一度発行しています「低平地研究No.30」では、低平地に関する各種の論文・報告を掲載するとともに、「低平地における市民活動とコロナ禍」を特集し、市民活動団体への聞き取りを踏まえて現況の一記録して編集しました。また、ニューズレターをNo.101~103を発行し、催しの案内や活動成果等を随時報告することができました。

当年の組織的な取り組みとして、12月17日に低平地研究会が佐賀大学理工学部と協定書を締結しました。これまでに以上に相互に連携し「低平地」に関する研究を深め、地域社会の持続的な発展に寄与すべく、取り組んでいくことが約束されました。

本会の主たる活動単位である6つの部会活動は、以下に詳述するとおりですが、歴史や文化の史料、地域の解説といった研究成果が複数刊行され、市民や大学生等も参加可能な催しについては、オンラインやハイブリット(対面+オンライン)方式の活用、加えて、海外の複数大学と同時につなぐ取り組み、繰り返し活用できる学習コンテンツ作成の取り組みなど、新しい手法を活用した取り組みも行うことができました。

① 基盤整備専門部会

■2021年度活動報告

「二層地盤上の剛性基礎の支持力解析」講演会

日時:2022年3月28日(月)14:30~16:00

場所:佐賀大学理工学部3号館1階都市大セミナー室

:Webexを利用したオンラインセミナーを同時開催

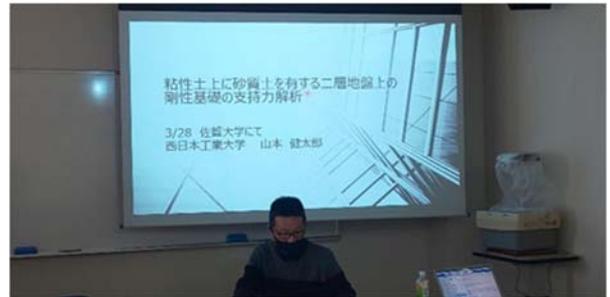
講演タイトル:『粘性土上に砂質土を有する二層地盤上の剛性基礎の支持力解析』

講師:西日本工業大学 准教授 山本健太郎 氏

共催:佐賀大学理工学科都市工学部門

山本博士より、粘性土上に砂質土を有する二層地盤上の剛性基礎の支持力解析に対し、有限要素法を適用した事例につ

いて講演していただきました。様々な二層地盤の強度パラメータの組み合わせに対する極限支持力とH/Bの関係や、有限要素解析から求めた極限支持力値と既往の研究結果との比較などについても話題がおよびました。有限要素解析による極限支持力の値は実務に対しても有用であることが示され、地盤の支持力解析に関する理解がより深められた機会となりました。(低平地防災特別部会と共同開催)



■2022年度活動計画

- ・「これからの低平地と基盤整備」に関連するテーマの講演
- ・低平地の地盤工学的性質に関連する研究

② 都市空間専門部会

■2021年度活動報告

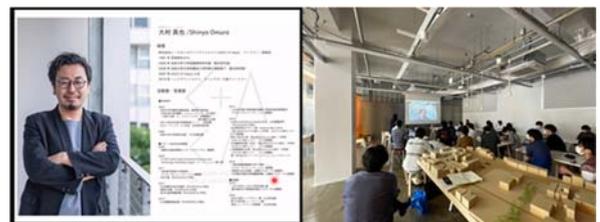
- (1) 特別講演会 大村真也氏(建築のはじまりとおわり)・建築都市デザイン演習II ゲスト講評会

日時:2021年6月1日(火)15:00~17:00

場所:佐賀大学理工学部4号館デザインスタジオ +オンライン

主催:佐賀大学理工学部都市工学部門建築環境デザインコース
参加者:58名(対面22名、オンライン36名)

建築都市デザイン演習II 第一課題〈街中にくらす、81人のための集合住宅〉に関連して、近年地域につながり、地域に開かれた集合住宅(ROPPONGI TERRACE)を設計されたCatパートナー大村真也氏をオンラインにてお招きし、特別講演会及び3年生建築設計課題のゲスト講評会を開催しました。対面・オンライン併用のハイブリッド型とすることで、科目を履修している3年生のほかにもオンラインで多くの聴講者の参加がありました。



大村真也氏

対面参加の様子

(2)野老朝雄氏作品のオープニング理工学部4号館見学会
および市民向けシンポジウムの共催

日時：2021年12月11日（土）10:00～17:30

場所：佐賀大学理工学部4号館、6号館ほか オンライン

主催：佐賀大学理工学部都市工学部門

佐賀の木・家・まちづくり協議会

共催：(一社)日本建築学会九州支部佐賀支所



美術家・野老朝雄氏が手がけた「ARITA HUNDRED STEPS MANJI 2021 (有田焼琉璃百段階卍(陰)(陽)2021)」のオープニングセレモニー及び見学会が佐賀大学理工学部4号館1階のデザインギャラリーにて行われました。コロナ禍による延期を経て、今回は十分な感染対策が成り立って主

要関係者と事前登録の参加者とともに盛大に執り行われました。



オープニングセレモニーの様子（野老朝雄氏：左から3番目）

有田焼の新たな美術作品であることに加え、建築空間への適用可能性、100段階の琉璃色陶板の制作技術、大学生等が設置過程への参加等々、様々な試行、今後への可能性が感じさせる一連のプロジェクトといえるでしょうか。百聞は一見にしかず、ご覧頂きたい方は低平地研究会事務局や関係教員にご一報ください。



理工学部4号館見学会の説明
(佐賀大学 三島伸雄教授)

(3)公開研究会「津波被災地域にみる低平地集落の移転・再生と課題」主催

日時：2022年1月11日（火）9:30～11:30

場所：佐賀大学理工学部4号館デザインスタジオ

「津波被災地域にみる低平地集落の移転・再生の実情と課題」と題した公開研究会を行いました。まず、東日本大震災後の宮城県沿岸低平地等の集落の移転・再生の実情に詳しい鈴木孝男（新潟食料農業大学教授）、菊池義浩（仙台高等専門学校准教授）からご講演をいただきました。その後、コーディネーターの後藤隆太郎（佐賀大学理工学部准教授）が加わり、現地の実情や集落の防災・再生計画等の討議や補足説明が成されました。また、会場参加者（計11名）を交えて、今後の低平地における防災集団移転事業等のあり方について熱心な意見交換が行われるなど、有益な研究会となりました。



公開研究会の様子

(4) 初心者のためのオンラインGIS学習コンテンツ2の公開

日時：2022年3月15日（火）公開

場所：低平地研究会 Web サイト内

(<https://lora-saga.jp/toshi.html>)

主催：低平地研究会都市空間専門部会

低平地研究会都市空間専門部会では、昨年に引き続き初心者向けにGIS(Geographic Information System：地理情報システム)を学習するためのオンラインコンテンツの公開を行っています。今回は第2弾ということで、前回の内容に引き続き、演算（ジオメトリ演算、フィールド演算）、検索（属性検索、空間検索）、新規データの作成方法、アドレスマッチングなど、GISを活用していく上で不可欠な機能を紹介しています。



(5) 第22回コミュニティデザインカフェ「建築を享受することの射程／環境と時間と距離」

日時：2022年3月29日（火）13:00～17:30

場所：佐賀大学理工学部4号館デザインスタジオ
+オンライン

主催：佐賀大学理工学部都市工学部門建築環境デザイン
コース+佐賀大学理工学部コミュニティデザイン
研究会

共催：（一社）日本建築学会九州支部佐賀支所

倉方俊輔氏（大阪市立大学教授）・辻原万規彦氏（熊本県立大学教授）をお招きし、特別講演会及び3年生建築設計課題「new normal UNIVERSITY LIBRARY」に意匠+環境の両側面から取り組んだ作品・卒業制作・修士制作の優秀作品を一堂に会したゲスト講評会・バーティカルレビューを開催しました。現役学生30名のほかオンラインで大阪・鹿児島などから28名の参加がありました。他学年の作品を同時に講評するバーティカルレビューは初の試みでしたが、学生にとっても大変有意義な機会となりました。



コミュニティデザインカフェ参加者

■2022年度活動計画

- ・環アジア国際セミナーの開催（共催）
- ・コミュニティデザインカフェの開催
- ・低平地の都市空間に関する研究成果公開、研究会や講習会等の開催
- ・GIS学習コンテンツの公開

③環境専門部会

■2021年度活動報告

(1)低平地技術に関するASIAN 協働セミナープログラムの共催

日時：2021年11月29日（月）～12月7日（火）

場所：Facebook、YouTube（動画配信）

参加大学：佐賀大学理工学部

ハサヌディン大学（インドネシア）

ランパン・マクワット大学（インドネシア）

カントー大学（ベトナム）

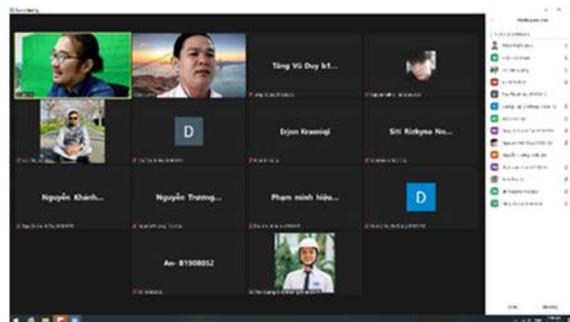
主催：佐賀大学理工学部

本プログラムは、低平地に立地する東南アジアの東南アジアの連携大学とともに、研究者が協働して研究成果に基づく教育（Research Based Education）によって低平地の共通・地域課題や技術について学ぶことを目的としたものです。本年度も低平地学への入門型の内容としてオンライン形式にて開催されました。



セミナーのウェブページ

その方式は昨年度のを踏襲して、プログラムの進行やディスカッションはFacebookで実施し、講義や動画コンテンツはZoomによるライブ形式やYouTubeによるオンデマンド型としました。本年度は開講式と閉講式、7つの講義と5つのテクニカルツアー、ポスターセッションのほか、佐賀大学理工学部の学生（STEPS）との交流を実施しました。

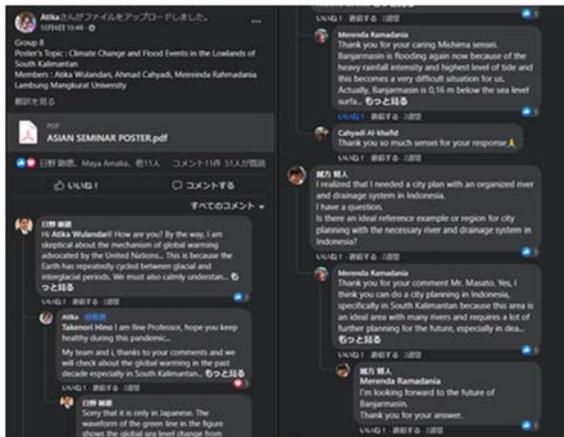


Zoomでの講義中の様子

参加人数は、海外大学からは2カ国3大学の学生が51名、教員が4名で、本学からは学生が25名（大学院生とSTEPS）、教員が4名と、過去最大の人数でした。講義では学生からの質問が多くあり、ポスターセッションでも多くの質疑がわかされました。従来のような口頭のみでのコミュニケーションだ

けでなく、文章での意見交換の機会が中心となっていたため、十分な意思疎通を図られたようで、参加者からは好評な進行だったようです。

事後アンケートでは、低平地に関わるトピックの重要性を理解できたとのことで、今後、LTI への論文投稿や本学への中長期の留学へ繋がっていくことが期待されます。



ポスターセッションの様子

者、そして佐賀大学の関係者が参加しました。

質疑応答の時間では、水害の発生頻度や地域の特性による災害廃棄物発生量及び災害廃棄物処理計画策定率の違い、災害廃棄物の再生利用問題、棄物発生量の新しい推定方法の展望に関する議論及び意見交換がなされました。今回の講演会が少しでも低平地における災害廃棄物対策の発展へ貢献できれば幸いです。



■ 2022年度活動計画

次年度も引き続き、国内外の低平地における環境問題に関する講演会の他、佐賀低平地ならではの環境技術の情報を国内外への発信する予定です。ご参加をお待ちしております。

- 1) 世界や国内の低平地の環境問題をテーマとした講演会
- 2) 協働プログラムのオンライン開催支援
- 3) 効率的な環境学習のためのデジタルコンテンツ作成

(2) 講演会『水害における災害廃棄物発生状況と発生量の推定』

日 時：2021年3月17日（木）13：30～15：00

場 所：佐賀大学工学部6号館1F 都市大講義室

講 師：島岡 隆行氏

（九州大学工学部 工学研究院環境社会部門 教授）

参 加 者：24名

近年、全国的に水害が頻発し、特に排水が困難である低平地において被害の拡大が懸念されています。「災害廃棄物」の対策は、被災地の方々の安全かつ快適な暮らしを取り戻すために重要な課題となっています。

2021年3月17日（木）に九州大学工学部工学研究院環境社会部門の島岡隆行教授をお招きし、水害による災害廃棄物の発生状況及び廃棄物の量の推定方法等についてご講演いただきました。



九州大学 島岡隆行教授

近年の災害に伴う災害廃棄物の発生量や水害による廃棄物の組成割合と地震災害等の組成割合の違い、そして、災害廃棄物発生量の新たな推定方法及び島岡先生のチームが実施されているドローンによる災害廃棄物仮置場のモニタリングをご紹介いただき、災害廃棄物の対応に関する問題点や技術等について情報提供していただきました。

低平地研究会の会員をはじめ、災害廃棄物処理の責任者である佐賀県内の市町村及び水害の対応や水環境保全対策の関係

④ 地域創生専門部会

■ 2021年度活動報告

(1) 講演会

令和4年1月22日(土)、久留米市水沼の里2000年記念の森、「三潞総合福祉センターゆうゆう」において、「三潞と三潞氏の歴史について」と題して、14時～16時の間、大矢野榮次氏(久留米大学名誉教授)による講演を行った。

講演内容は以下のとおりである。

明治初期の三潞県の設置から、佐賀の乱の結果として、佐賀県一帯が三潞県になったいきさつや明治政府が「三潞」という地名に歴史的な価値を見出していたことを説明した。



徐福文化や邪馬台国文化を背景とした有明海文化圏の担い手としての三潞氏の歴史について、「景行天皇の時代の猿大海」の時代から、やがて有明海から南に広がる海部一族として豊後の海部郡から徳島の海部・和歌山の海部・名古屋の海部と広がる海の民の一族として『日本書紀』に登場する一族であること、そして、宮津の元伊勢神社の宮司家が海部氏であるように、日本海の支配者として『日本書紀』に登場する重要な一族であることを説明した。

筑後国三潞荘出身の三潞氏は、鎌倉時代に和田義盛が三潞荘の地頭職に補任されたときにその配下となった。和田義盛が鎌倉に帰り、和田義盛の弟和田宗実が建久3年(1191)10月21日、越後の国奥山荘の地頭職に補任された時に、現在の新潟県の奥山荘関郡に移ったことが説明された。

(2) 見学会「佐賀の歴史巡り」コロナの影響により中止。

(3) 冊子刊行

・『継体天皇・安閑天皇・宣化天皇・欽明天皇・敏達天皇一倭の五王と彥王朝の崩壊、そして、肥後王朝の進出』(令和3年8月)・・・『日本書紀』を前提として、神功皇后と武内宿禰との関係から彥王朝の意味を考え、倭の五王と有明海・肥前との関係を説明している。ここで、彥とは「ひこばえ」と読み、切

り株から出た芽を意味し、「萌蘗(ホウゲツ)」という意味である。仲哀天皇の子であるはずの応神天皇の秘密を解くカギであるが、このヒントが基山町の基肆城にあることを説明。

・『用明天皇・推古天皇・聖徳太子―阿蘇山の肥後・豊前・豊後の王朝』(令和3年9月)・・・聖徳太子は阿蘇山・阿蘇神社との関係が深い関係があることを『日本書紀』を前提に説明。臼杵の石仏群とその般若姫の物語が用明天皇の物語として語られる秘密と大分市坂一の萬弘寺に用明天皇が祀られる意味を考察。そのヒントとして、大分市内の亀塚古墳と築山古墳に鳥葬の跡が残ることの意味を考えることによって、用明天皇から、聖徳太子、推古天皇の秘密が暴かれることを説明。



・『乳母神社と産宮神社―佐賀市富士町・唐津市七山の古代史考察』(令和3年10月)・・・佐賀市富士町の嘉瀬川ダムの上流域下無津呂に神武天皇の乳母を祀る神社があり、嘉瀬川ダムの横には、山幸彦の母親木花咲耶姫を祀る子安神社がある。そして、糸島には、第二代綏靖天皇の乳母を祀る産宮神社がある。佐賀市富士町と唐津市七山一帯は山幸彦から神武天皇・綏靖天皇の物語が語り継がれている。

■ 2022年度活動計画

- ・現地(有明海と筑後川)の歴史・文化・環境についての現状調査と解説を行い、地域創生と国際化を両立させることを模索するための研究を続ける。
- ・有明海沿岸域の経済構造の実態と佐賀空港周辺域の将来構想の研究について続行する。
- ・有明海沿岸部等の低平地における社会基盤整備の現状や課題について調査・研究を行う。
- ・有明海沿岸域の経済構造の実態と将来構想の研究について続行する。
- ・この地域の文化・社会・経済・政治を理解して、地域創生とこの地域の国際化の両立を模索するための研究を続ける。

⑤ 歴史・文化専門部会

■2021年度活動報告

史料翻刻及び解説『魯西亜船渡来録』

歴史文化専門部会では、文化元年（1804）、ロシア使節レザノフが長崎に来航する前後の対応について佐賀藩がまとめた記録「魯西亜船渡来録 一」（公益財団法人鍋島報効会所蔵、佐賀県立図書館寄託鍋島家文庫 252-18）を翻刻した史料集を刊行しました。



本史料は、文化元年7月にロシア船長崎来航（実際に来航したのは7月）の情報を入手した佐賀藩が、どのような体制で来航に備えるべきか長崎奉行や福岡藩と協議した内容が主に収録されています。寛政4年

（1792）、ラクスマンが通商を求めて根室に来航し、幕府は長崎入港の許可証である信牌を渡しました。その直後から長崎ではロシア船来航への準備が検討され、本史料では寛政6年に長崎奉行平賀伊賀守より佐賀・福岡両藩へ指示が出されたとされています。しかしその後十年以上ロシア船は訪れなかったため、このとき改めて対応が協議されました。本史料の分析により、ロシア船の来航に対する幕府や佐賀藩の危機意識や対応を知ることができます。

■2022年度活動計画

引き続き他専門部会と連携し、有明海沿岸地域を中心とした現地調査や史料の探求・公開及び外部講演などを行う予定です。

⑥ 低平地防災特別部会

■2021年度活動報告

「降雨特性と河川浸水面積への影響」に関する講演会

日時：2022年3月28日（月）13:00～14:30

場所：Webex を利用したオンラインセミナー

〔佐賀大学理工学部3号館1階都市大セミナー室を公開会場として、橋本先生および一部の参加者はオンラインにて参加〕

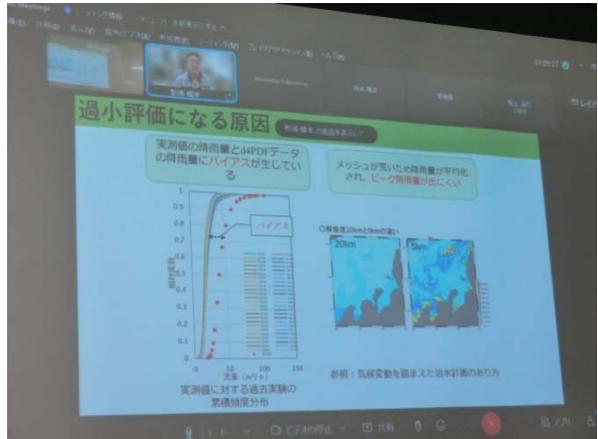
講演タイトル：

『将来気候下の降雨特性と中小河川の浸水面積への影響』

講師：福岡大学 准教授 橋本章博 氏

共催：佐賀大学理工学部都市工学部門

橋本博士より、地球温暖化後の降雨などの気象の予測結果である d4PDF（地球温暖化対策に資するアンサンブル気候予測データベース）のバイアス補正法に関する研究内容について講演を頂きました。また、今後の気候変化に対して適切な治水適応策を検討するための“治水対策事業費の簡易推計法”について、解説頂きました。水害リスクが極めて高い低平地の治水対策を今後検討していく上で、重要な考え方を学ぶ機会を頂きました。（基盤整備専門部会と共同開催）



■2022年度活動計画

- ・低平地の災害リスクと防災減災に関する研究
- ・低平地における災害免疫力の評価方法に関する研究
- ・防災研究に関する成果発表や講演会の開催

【特別講演】

『国土のリ・デザイン』

わたしたちはどのような国土をつくりあげ、どう使ってきたのか

講師：中岡 義介 氏（元佐賀大学教授）

《講演の概要》

技術の進歩とともに、島国の沖積平野に都市をつくり、快適な生活空間を追い求めてきた日本人。しかしその暮らしは、本当にこの国土に向き合ったものだったのか、国土の形成に適合した自然との共生を佐賀平野での生活実践に見出し、文明論的観点から新たなこの国のグランドデザイン＝リ・デザインを提起する。

災害が頻発する今、自然との向き合い方を佐賀平野のスタディを中心に考える。



■中岡義介先生 略歴

地域都市計画家 1944年神戸市生まれ

京都大学工学部建築学科卒・同大学院修了 工学博士

福井工業大学、佐賀大学、兵庫教育大学教授を歴任。

その間に京都大学人文科学研究所講師（非常勤）、中南工業大学客員教授、国立民族学博物館・国立歴史民俗博物館共同研究員、日本学術振興会サンパウロ研究連絡センター一長などを兼任。兵庫教育大学名誉教授

○主な著書

『空間の原型 すまいにおける聖の比較文化』（共編、筑摩書房、1983）

『奥座敷は奥にない 日本の住まいを解剖する』（彰国社、1986）

『六人家族の中国ノート』（学芸出版社、1989）

『ラテンアメリカ 都市と社会』（分担執筆、新評論、1991）

『マシシティ大衆文化都市としての日本』（共著、学芸出版社、1991）

『地文学事始 日本人はどのように国土をつくったか』（分担執筆、学芸出版社、2005）

『路地研究 もうひとつの都市の広場』（分担執筆、鹿島出版会、2013）

『首都ブラジリア モデルニズモ都市の誕生』（共著、鹿島出版会、2014）

『世界地名大事典9 中南アメリカ』（分担執筆、朝倉書店、2014）

『バリ島巡礼 集住の村々を探る』（共著、鹿島出版会、2016）

○主な計画・設計：

「嘉瀬川ダム周辺整備計画」（佐賀県）、「佐賀市都市景観計画」（佐賀市）、「志田焼の里博物館」（嬉野市塩田町）など

< 特別講演メモ >

